

## 正しいキズの治し方

最近、創傷治療の専門家である形成外科医の間で、擦り傷や切り傷には、湿潤療法〔うるおい療法〕と呼ばれる新しい治療法が広まってきています。

これは、従来正しいとされていた、消毒して、ガーゼを当てて保護するというやり方とは違って、消毒はせず、傷口を水道水で十分に洗ってよごれをとり、あとは傷を乾かさないように、サランラップまたは医療用のハイドロコロイドというシートで覆ってやればOKという方法です。

実際この治療を、皆さんは経験的にご存知だと思います。それは、口の中の傷（噛んだとかやけどしたとか）で、口の中にはガーゼもあてませんし、消毒もしませんが、きれいに早く治っていきます。これこそ湿潤療法で、常に傷が湿っている環境にあるからなのです。

### ★ 消毒はしない！

消毒薬は細菌を殺す働きがありますが、その一方人間の正常な細胞に対しても毒性があります。消毒は傷を治そうとしている細胞を殺すことになり、傷の治りが遅くなります。消毒薬を飲んだりしないように、傷口にも、飲んだり出来ないようなものをつけないでください。消毒はしないでください。

### ★ 傷は乾かさない→湿潤状態を保つ

ケガをした後の傷からは傷を治すために必要な成分を含んだ浸出液が出てきます。そこにガーゼをあててしまうと必要な成分が吸収されて乾燥してしまい、自然治癒効果が期待できません。そこでラップなどの水を通さないフィルムをあてて、傷を常に湿らせた状態にし、人間が持っている自然治癒力を活かすようにしてやるのです。さらに、乾燥を防ぐという意味で、傷口に白色ワセリンを薄く塗ってからラップなどで、覆ってやれば、ヒリヒリとした痛みも軽減できるようです。

### ★ 湿潤療法をしない方がいい場合

深い刺し傷や、動物にかまれた傷の場合は、破傷風や蜂巣炎などの創感染の可能性があるため、湿潤療法は避けてください。この場合は傷口の洗浄を行って、早く医療機関で、診てもらってください。